

「オーストリアのマス川」(中2)の授業について

1 はじめに

表題の授業をするということで相談を受けました。「道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考える。」ということをもとに授業展開を考えました。1時間の授業で出す発問は次の通りとしました。

<読み物資料>

内容の理解を深める補助発問を2～3つ
資料から道徳的価値について考える発問を1つ

<生活の振り返り>

読み物資料を踏まえて生活の振り返りから道徳的価値を考える発問を1つ
生活の振り返りから道徳的価値を考えることは難しい場合は、自分に引き寄せて考える発問を1つ

2 授業展開

- (1) 教材名 オーストリアのマス川 / (2) 主題名 規則を守る
(3) 内容項目 C-(10) 遵法精神、公德心
(4) ねらい 規則は幸福な社会を実現するためにあることを理解し、それを遵守しようとする判断力を育む。

(1)～(4)は指導書より

(5) 授業展開

<導入>

質問 守らなくともよい校則やきまりはあるだろうか。

<資料からの発問>

発問1 p129 ㉓、㉔ 「僕」は自分が釣ったニジマスのことを「ニジマスの少年だ。」とか、「来年おいでのニジマスだ。」と言っています。どんな気持ちで“少年”とか“来年おいで”と言っているのでしょうか。

- ペアで交流する。全体で交流する。
- 川に戻さなければならぬ小さなニジマスだ

発問2 p131 ㉒～ ㉓ ニキロを越えようと思える立派なグレーリングを「僕」はなぜ川に戻したのでしょうか。

- ペアで交流する。全体で交流する。
- p130 ㉒～ ㉓ グレーリングの解禁日が明日で、今日はまだ解禁日になっていないから

発問3 p131 ㉒～ ㉓ 釣ったグレーリングを川に戻したとき、「僕」はどんなことを考えていたと思いますか。

- 班で解決する。各自が道徳ノートの「考えてみよう」に自分の言葉で書く。
- 全体で交流する。
- p131 ㉒～ ㉓ 「手網の中にグレーリングを入れたまま、しばらくの間ためらった。」
「この皮肉な一日だけの違いを呪いながら、しぶしぶ魚を水中に放った」
ことから考える。

※発問4は生徒の実態の応じて使い分ける。

<生活の振り返りから考える発問>

発問4 読み物と同じようなことがなかったかを振り返り、その時の思いと、今そのことについてどう考えているかを道徳ノート“自分に+1”に書きましょう。

- ①読み物と同じようなことはなかったか思い出そう。(エピソード)
いつ、どこで、どんなことがあったかを書きます。
- ②そのとき、何を思ったか、感じたかを書きます。
- ③今、振り返ってみて、そのことについてどう思うかを書きます。

→ これくらいなら規則を守らなくてもいいやとか、誰も見ていないから大丈夫だと思った経験はなかったか。

→ 迷って末に、規則を守った経験や守らなかった経験はなかった

→ クラスメイトに知られたくない内容であるかもしれないことから、全体や班での交流では、発表できる人だけとする。

<自分に引き寄せて考える発問>

発問4 「守らなくてもよいと思う校則やきまりはあるだろうか」について考えよう。

- 班で交流してから、道徳ノート“自分に+1”に書く。
- 全体で交流する。
- 守らなくても良い校則やきまりはない。
- 校則やきまりを変えることで、生活しやすくなったり、生活が豊かになったりすることもある。
そういったときは、どうすれば校則やきまりを変えることができるか方法を考える。
あるいは、教師から示す。

3 おわりに

「本当に全員が取り組んでいるか」というのが最近の私のテーマです。自分の考えを書くとき、課題(発問)の内容は理解できているが、何を書いているのかよく分からないという生徒がときどきいます。これを解決するために、班で交流してから書いたり、班で解決してから自分の言葉で書いたりしてはどうかと考えています。

ぜひ、実践していただき、成果と課題を共有したいものです。